

社会的圧力に影響されない堅牢な信念の実証的研究

北村和也

社会総体において社会過程が一定の明確な調和的均衡をもっている状態である社会秩序は、古くから多くの研究者達から議論されてきた。先行研究では、社会秩序は集団内に共有された価値観や規範という文化的信念から形成されるという見解だが、体系的な実証研究がされておらず、そもそも本当に社会秩序は存在することが明らかにされていない。

本研究では、社会秩序の存在を実証的に明らかにして、それを整理することを目的とし、社会秩序を形成する規範はどのような規範が存在するのか、その規範は他の規範と関連性があるのかを明らかにし、分類した。その結果、規範に影響を受けた状況、または逆らった状況に「部活」「友人関係」「職場」等があったが、規範に影響されずに逆らった状況は、当人がその集団内に存在する規範を重要視していない可能性が考えられた。周囲から受ける規範を遵守する圧力や、規範に対する暗黙了解、規範に逆らう行動の取りにくさが強ければ強いほど、規範の影響力は強くなる結果となった。先行研究では、集団内で共有されている文化的信念が社会秩序の形成に重要であるとされており、先行研究と本実験の結果から、安定的な秩序形成には、個人の信念を周囲に共有するかが重要である可能性が考えられる。